

TOPICS
「展示」

「海洋都市横浜 うみ博 2019」に おける船模型展示とワークショップ

期間：2019年7月20日（土）～7月21日（日）

会場：横浜港 大さん橋ホールエントランスホール・神奈川大学ブース

和船模型と「神奈川湊と横浜港」 パネル展示とワークショップ

昆 政明

7月20日・21日の両日、海洋都市横浜うみ博協議会が主催する「海洋都市横浜 うみ博 2018」に、本研究所が所蔵する船舶模型およびパネルを出展した。今回で3回目の出展で、展示場所はエントランスホール部分が割り当てられた。

今回は展示テーマを「神奈川湊と横浜港」とし、上方から江戸に多くの物資を輸送した「菱垣廻



写真1 展示会場



写真2 大賑わいの体験イベント「折り紙で帆掛け船を作ろう!」



写真3 水槽での帆走体験



写真4 帆の上げ下ろし体験



写真5 会場設営前の状況

船」10分の1模型を中心に、昨年も展示した中国船に合わせて、今回は江戸時代後期に幕府により建造された「三国丸」を展示した。三国丸は日本船とオランダ船、中国船の折衷型と言われているが、不明な点も多く想像復元である。

展示の中心である菱垣廻船模型は、和船模型製作者として「現代の名工」にも選出された近藤友一郎氏の制作によるもので、今回も昨年度に続き、帆の上げ下ろし体験も行った。帆の上げ下ろし体験は、主にこども対象の試みで、和船研究会の会員の指導で安全に留意して行った。また、今回は新たな試みとして、帆の配置を風上に向かって航行可能な逆風帆走（マギリ）の状態に配置した。帆桁の位置や、それぞれに取り付けられた綱類を所定の位置に配置することにより、順風時の帆走とは違う帆の姿を展示することができた。

パネル展示では、神奈川湊から新たに開港した横浜港に、港の機能が移転して行く様子を写真構成で紹介した。特に、港の荷役と関連の深い髭の変遷にも焦点を当てた展示を行った。同展示には本学図書館所蔵古写真とともに横浜開港資料館の協力を得た。

また、体験型イベントとして「折り紙で帆掛け船を作ろう!」を開催し、多くの参加者で賑わった。体験型イベントには歴史民俗資料科学研究科の院生が大活躍し、また、模型の搬出搬入準備や展示、帆の上げ下ろし体験、展示模型解説には前回同様、昆研究室で開催している勉強会の参加者で構成される和船研究会の協力を得た。